

相談は会社のマークにまで

中京商業圏の特色は中小企業が多いことだ。トヨタ自動車のアメリカ本土進出で、関連下請け会社まで工場の海外移転を迫られている。

その中心都市名古屋で、一部上場企業から保育園経営者にまで幅広い人気をもつ女性占い師がいる。

「今と昔では占いの内容が変わってきています。昔は事業を拡大したいが成功するかどうか。始める時期、担当者、取引業者の選定、設備投資の規模、工場を建てる土地の相。は悪くないかどうか、そういうものが多かったです。」

ところが最近では事業がうまくいっていない、どうしたらいいか。あるいは後継者がいなくて困っている、誰にすればいいか。その番頭役には……といったものが増えていきますね」（占いの玉手箱代表・竹村壹希子氏）

易、人相、手相などを駆使して占う竹村氏は30人の占いのスタッフを動かす女

社長でもある。中小企業の場合は経営者自らが、大企業の場合は、銀行の支店長や重役が相談に訪れる。

先に述べたもの以外にも最近の占うテーマは多岐にわたっている。新商品の名前はどれがいいか、C1用のシンボルマークやロゴタイプはこれがいいか、などといったものまである。

メーカーであるA社などは採用予定者の生年月日、出身地、面接の結果……などを一覽表にしたものを持参し、最後の空欄に竹村さんの占いの結果を記入してくれといったききたそうだ。

占いを依頼してくるのは会社側ばかりではない。中堅社員が自分のライバルの運気を占ってくれとか、どの上司と相性がいいか、といった出世レースの相談も持ち込まれるという。

使う側も使われる側も悩んでいるのである。